

集いの場あゆみの利用者における生涯学習ニーズ ～利用者へのアンケート調査からわかったこと～

藤江 彩

このアンケートでは、『集いの場あゆみ』の利用者（以下、「利用者」）に対して、現在の状況、生涯学習の利用状況、今後の活動に対する期待や希望についてうかがいました。その調査結果と分析からわかったことをまとめます。

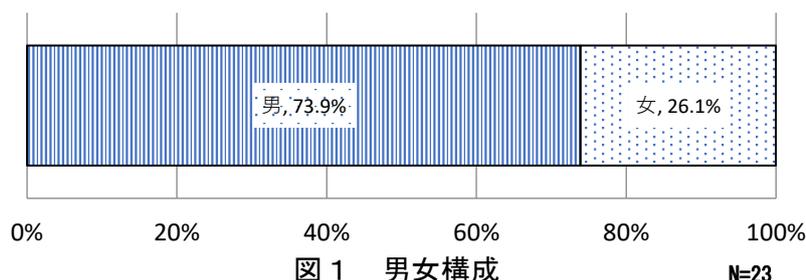
『集いの場あゆみ』の利用登録者 27 名のうち、23 名に対して、集合調査法（自記式）で質問紙調査を実施しました。質問紙を用い、必要に応じて個別に説明をしながら行いました。実施会場は『集いの場あゆみ』、調査時期は 2018 年 9 月、回答時間は 30 分程度でした。

（※グラフ中に記載してある「N=〇」は、回答者数を表しています。）

1. 調査時点における利用者の状況

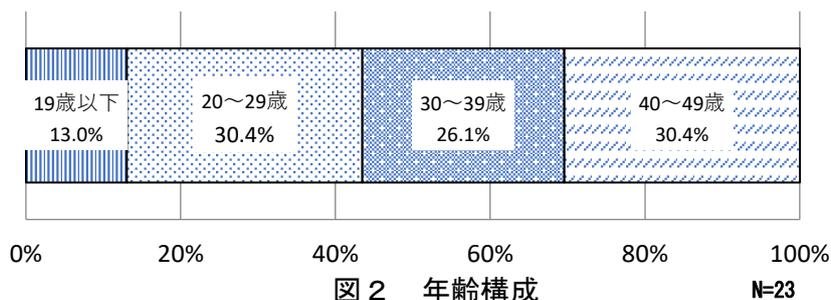
以下では、利用者の現在の状況では、男女構成や年齢構成などを中心に示します。なお、「療育手帳の等級（図3）」、「現在の所属先（図4）」については、調査時には質問をしませんでしたが、『集いの場あゆみ』のスタッフと確認を行いましたので、あわせて報告します。

（1）男女の構成



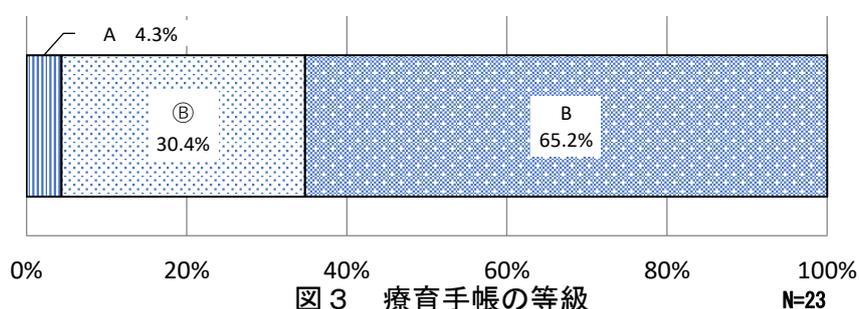
利用者 23 名のうち、「男性」は 73.9%、「女性」は 26.1%であり、利用者の男女の比率をみると、女性は男性に比べて少数でした（図1）。障害のある人の多くは、男性の方が多いと言われています。そのため、必然的にどの事業所でも男性が圧倒的に多く、『集いの場あゆみ』でも同様の状況であることがわかります。

（2）年齢構成



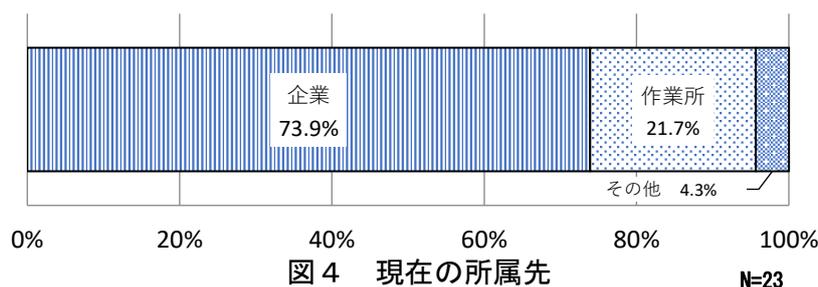
年齢別の割合では、「19歳以下」は13.0%、「20～29歳」は30.4%、「30歳～39歳」は26.1%、「40歳～49歳」は30.4%と、年齢幅が広い状況にありました（図2）。このことから、幅広い年齢層が一堂に会することで、さまざまな思いや意見が出やすくなり、また利用者自身も先輩後輩との付き合い方を学びながら過ごすことも可能になるのではないのでしょうか。また、個別や少人数で過ごすときには、男性利用者は、大勢の男性陣のなかから仲の良い利用者を見つけて共に過ごすことができると考えられます。一方、女性利用者の場合は、少数の同性・同世代の中から共に過ごす仲間を見つけなければならない状況にありました。

（3）療育手帳の等級



回答者の療育手帳の等級は、「A」が4.3%、「B」が65.2%であり、全体的に見れば軽度の知的障害の方が多かったことがわかりました。（図3）。しかしながら、障害特性はそれぞれ異なっており、一括りに軽度知的障害とは表現することはできません。そのため、利用者一人ひとりの障害特性を理解しつつ、個性を尊重しながらその人に見合った支援を行うことが必要になってくると考えられました。

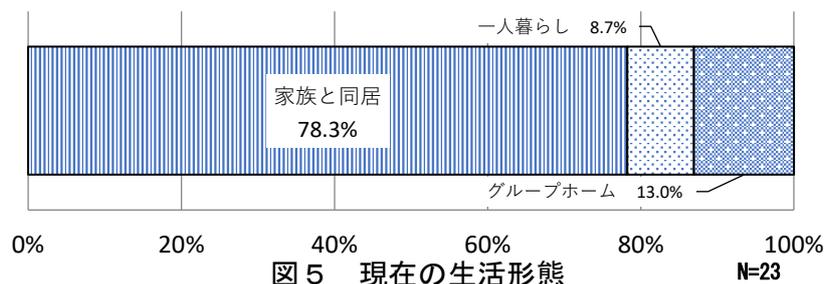
（4）所属先



現在の所属先については、企業において障害者雇用枠を用いて一般就労している者が全体の73.9%を占めていました。その他には、就労継続支援A型・B型事業所といった「作業所」を利用している利用者が21.1%を占めていました（図4）。また、全員が何らかの形で就労をしており、利用者は自分の職場の休日に応じて『あゆみ』を利用しています。利用者に職場環境では味わうことのできない充実感を味わってもらうためにも、『あゆみ』は時に息抜きできる場所で

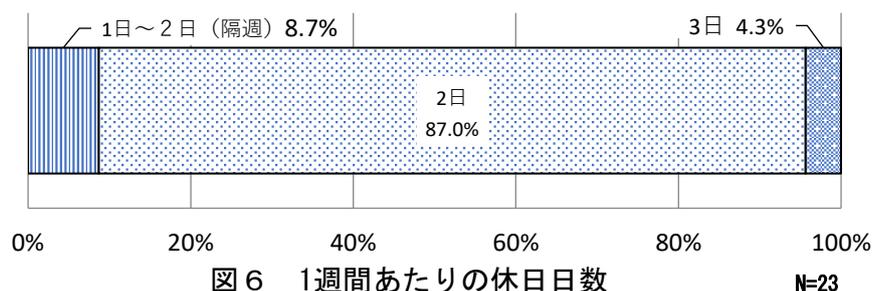
あることが大切だと考えられます。

(5) 生活形態



現在の生活形態においては、78.3%が家族と一緒に生活をしており、その他には、「一人暮らし」をしている者が8.7%、「グループホーム」を利用して生活している者が13.0%であることがわかりました(図5)。生活形態については、利用者一人ひとり異なっており、当然そこに至った背景もそれぞれずいぶん違います。家族からの支援が期待できる・できない利用者などさまざまですが、利用者の生活背景をしっかりと汲み取りながら支援していくことが必要なのだと考えられます。

(6) 1週間あたりの休日日数



また、1週間あたりの休日日数においては、「2日」が87.0%と最も多く、次いで、「1日～2日(隔週)」が8.7%、「3日」が4.3%でした(図6)。

2. 『集いの場あゆみ』の利用状況

以下では、利用に関する状況について示します。なお、『集いの場あゆみ』の利用年数（図7）」については、後日スタッフと利用年数の確認を行いました。

（1）利用年数

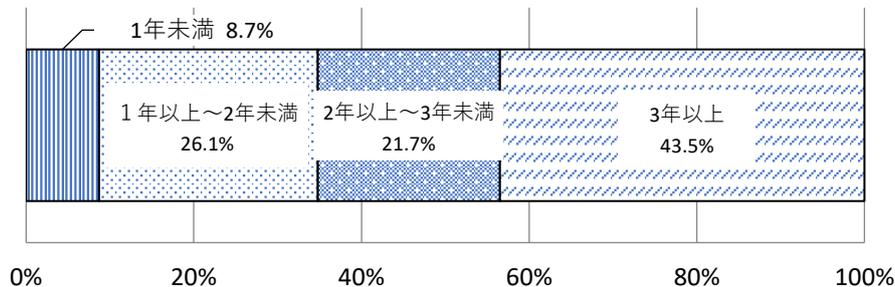


図7 『集いの場あゆみ』の利用年数

N=23

『集いの場あゆみ』の利用年数を見ると、「3年以上」が43.5%、「2年以上3年未満」が21.7%、「1年以上2年未満」が26.1%でした。

（2）利用状況（平日）

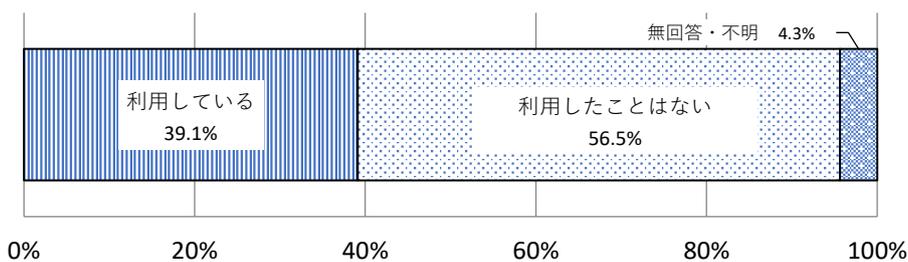


図8 『集いの場あゆみ』の平日の利用状況

N=23

平日の利用状況を見ると、「利用している」が39.1%、「利用したことはない」が56.5%であった。「利用したことはない」と回答した者は、職場の都合上、平日に休みがほとんどない利用者であることがわかりました。

（3）利用頻度（平日）

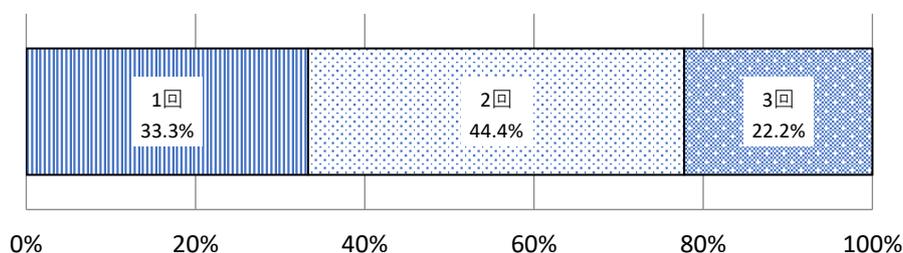


図9 「集いの場あゆみ」の平日利用者のうち、平日における1週間あたりの利用頻度

N=9

また図9では、平日に「利用している」と回答した39.1%のうち、1週間あたりの利用頻度をまとめました。「1回」が33.3%、「2回」が44.4%、「3回」

が 22.2%でありました。

(4) 利用状況 (日曜日)

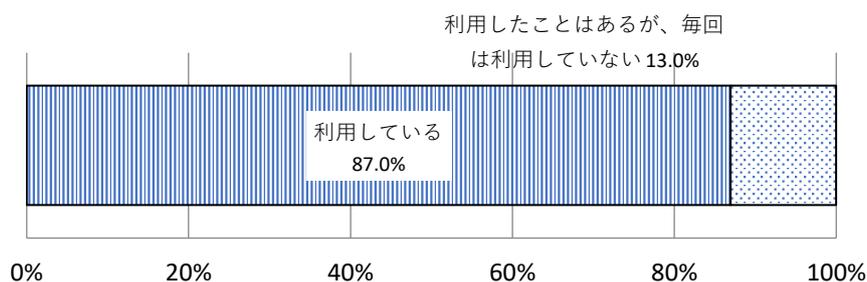


図 10 『集いの場あゆみ』の日曜日の利用状況 N=23

日曜日の利用状況を見てみると、「利用している」が 87.0%、「利用したことはあるが毎回は利用していない」も含めると、利用者全員が 1 度は日曜日を利用していることが読み取れました (図 10)。

このことから、日曜日に、職場の休日がある利用者が多いため、日曜日の活動がより大切になることが分かりました。

(5) 利用頻度 (日曜日)

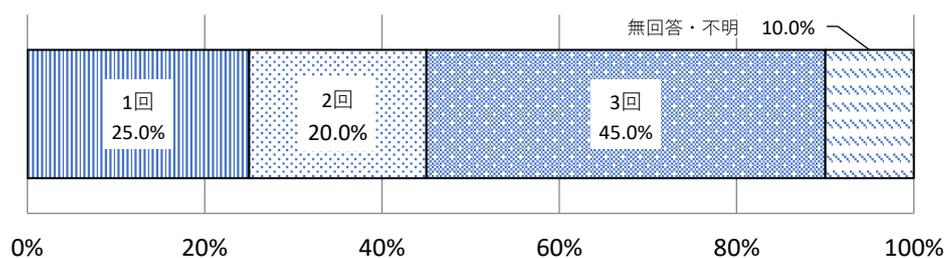


図 11 『集いの場あゆみ』の日曜日利用者のうち、日曜日における1か月あたりの利用頻度 N=20

日曜日に「利用している」と回答した 87.0%のうち、1 か月あたりの利用頻度をまとめました。「1 回」が 25.0%、「2 回」20.0%、「3 回」が 45.0%となっていました。『集いの場あゆみ』の日曜日の開催は平均月 3 回であるため、45.0%の利用者はほぼ毎回の日曜日の生涯学習講座に参加していることが読み取れました (図 11)。

今回の質問紙では、『集いの場あゆみ』の利用のきっかけについては回答を得ていませんが、年齢に応じて利用年数が長いというものではなく、スタッフと古くから繋がりがあったケースや、家族からの支援が受けられにくいため、支援を必要としていたケース、高等部卒業から年数を経て利用に至ったケースなどさまざまであることが分かりました。それに伴って、『集いの場あゆみ』を利用する意味も、利用者一人ひとり異なっているのではないかと考えられます。

日曜日の講座への参加は、全体の 9 割を占め、ほとんどの利用者は日曜日が職場の休日ということで参加に至っています。本人の意思のみならず、保護者の意向など各々の理由で参加していることが推測されますが、本人にとって『集い

の場あゆみ』で過ごすことがどのような意味を持っているのか振り返ることも重要であると考えられます。

3. 『集いの場あゆみ』の利用経験から～今後の活動への希望や期待～

以下では、回答者 23 名の『集いの場あゆみ』の活動に対する評価や参加を通して得られているものについてまとめました。図 13 および図 16～19 については、回答された自由記述からそれぞれ内容を抽出し、集計を行いました。

(1) 利用を通じた満足感や充実感①

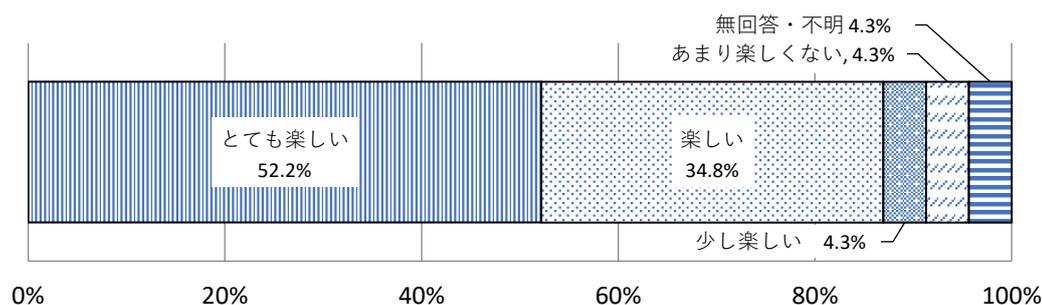


図 1 2 「集いの場あゆみ」について、あなたが思っていることを教えてください

『集いの場あゆみ』について、あなたが思っていることを教えてくださいに対する回答として、「とても楽しい」が 52.2%、「楽しい」が 34.8%、「少し楽しい」が 4.3%でした。このことから、『集いの場あゆみ』の活動が楽しいとされている利用者は、全体の約 9 割を占めていることがわかりました。

一方、「あまり楽しくない」と答えた人は 4.3%でした (図 12)。

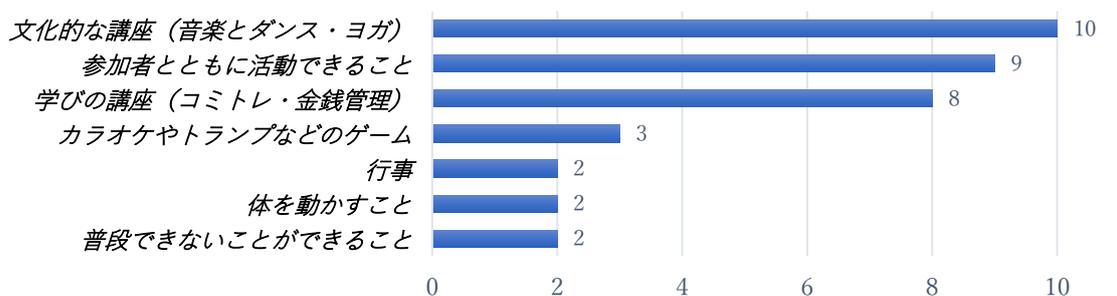


図 1 3 『集いの場あゆみ』の活動で楽しかったことを教えてください (自由回答)

※自由記述から楽しかった内容を抽出し、集計した。そのため、一人の回答に複数の内容が含まれる場合もある。

さらに、「とても楽しい」、「楽しい」、「少し楽しい」と回答した者のうち、『集いの場あゆみ』の活動で楽しかったことについて自由記述にて回答してもらいました。自由記述から楽しかった内容を抽出し、集計を行った結果、音楽やダンスなど文化的な講座に関する内容の記述が 10 件と最も多いことがわかりました。次いで、「みんなと」や「みんなと一緒に」といった参加者同士の交流

を意識した内容の記述が9件ありました。また、「色々な場所に行くことができる」や「普段できないことができる」といった経験の広がりに関する記述がそれぞれ2件ずつありました(図13)。一方、「あまり楽しくない」と回答した者の理由としては「利用者とのコミュニケーションがないから楽しくない」との回答が得られました。

(2) 利用を通じた満足感や充実感②

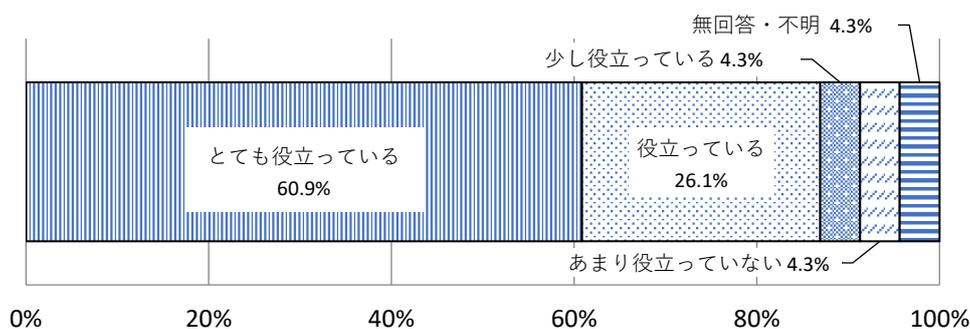


図14 あなたの生活の中で『集いの場あゆみ』の活動は役立っていますか N=23

あなたの生活の中で『集いの場あゆみ』の活動は役立っていますかに対する回答としては、「とても役立っている」が60.9%、「役立っている」が26.1%、「少し役立っている」が4.3%であり、『集いの場あゆみ』の活動が生活に役立っていると回答した者は全体の約9割を占めていることが分かりました。一方、「あまり役立っていない」が4.3%でした(図14)。

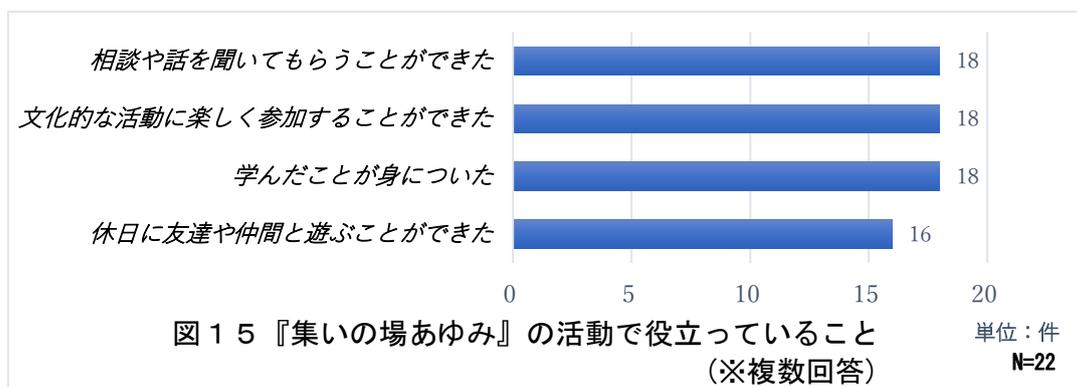
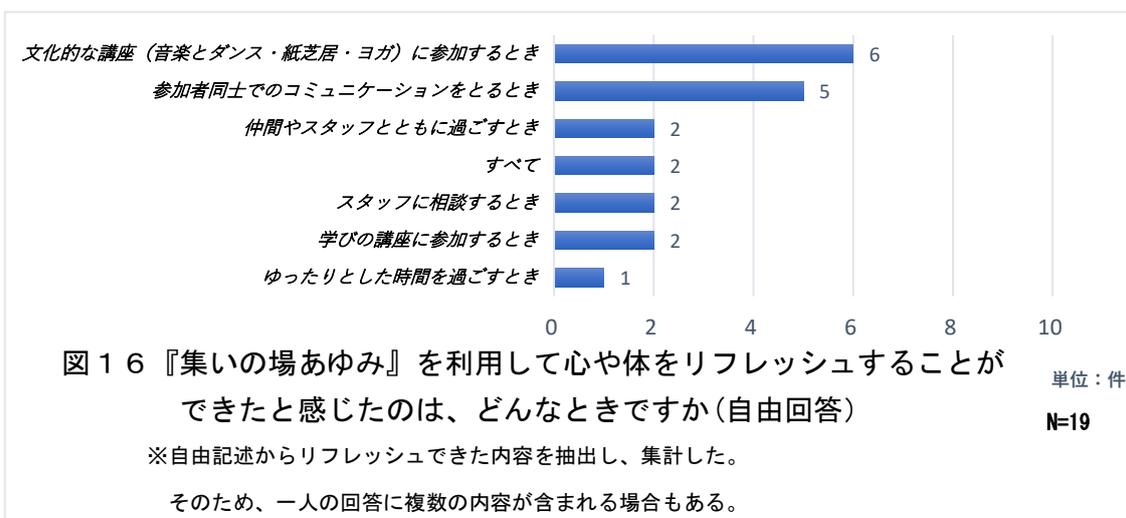


図15 『集いの場あゆみ』の活動で役立っていること (※複数回答) 単位: 件 N=22

「とても役立っている」、「役立っている」、「少し役立っている」と回答した者のうち、『集いの場あゆみ』の活動で役立っていることについて、図15にまとめました。役立っていることについてあてはまるものに複数回答を得たが、「学んだことが身についた」、「文化的な活動に楽しく参加することができた」、「相談や話を聞いてもらうことができた」が同率で18件、「休日に友達や仲間と過ごすことができた」は16件の回答が得られました。

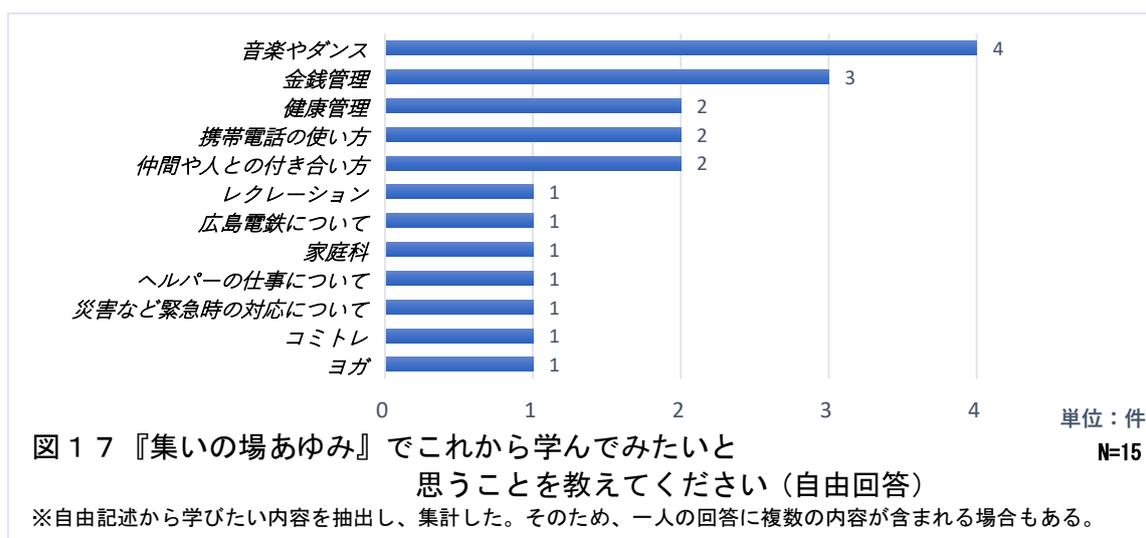
(3) 利用を通じた満足感や充実感③



『集いの場あゆみ』を利用して、心や体をリフレッシュすることができたと感じることについて自由回答によって回答を得ました。自由記述から、リフレッシュできた内容を抽出し、集計を行った結果、「文化的な講座に参加しているとき」（6件）が最も多くありました。「参加者とのコミュニケーションをとるとき」（5件）、「仲間やスタッフと過ごすとき」（2件）、「スタッフに相談するとき」（2件）であり、誰かと一緒に過ごすときにリラックスできると回答した数が9件であることが分かりました。

その他、「ゆったりとした時間を過ごすとき」といった『集いの場あゆみ』での時間の流れに対してリラックスできるとの回答が1件ありました（図16）。

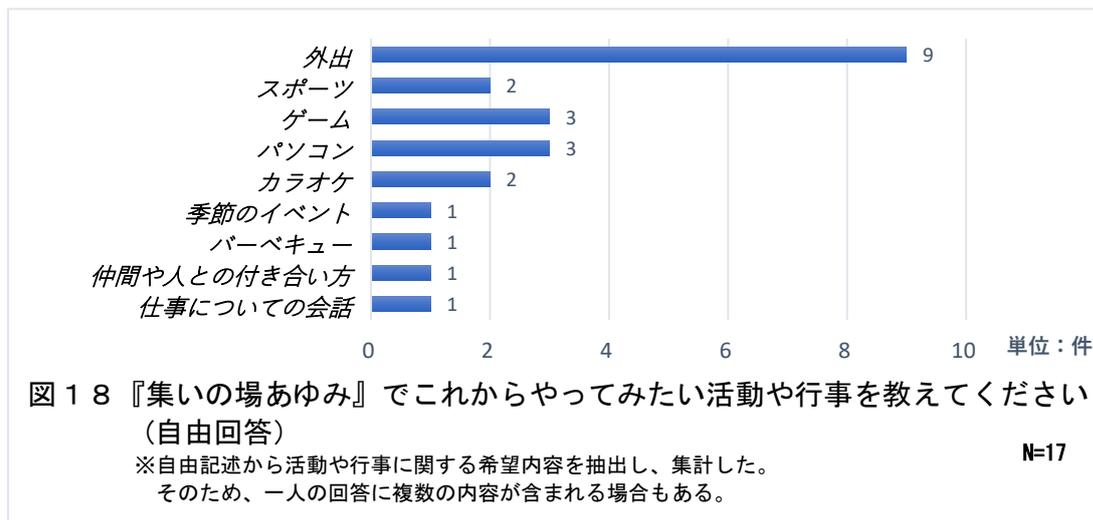
(4) 今後の期待（講座内容に対する希望）



『集いの場あゆみ』で、これから学んでみたいことについて、得られた自由記述から学んでみたい内容を抽出して集計を行った結果、最も多かったのは「音楽やダンス」（4件）でした。次いで、「携帯電話の使い方」（2件）、「健康管理」

(2件)、「金銭管理」(2件)、「仲間や人との付き合い方」(2件)など、現在講座で取り上げられている内容が回答されました。なお、平成30年7月豪雨の影響から、「災害時など緊急時の対応」(1件)を希望する回答もありました(図17)。

(5) 今後の期待(活動・行事内容に対する希望)

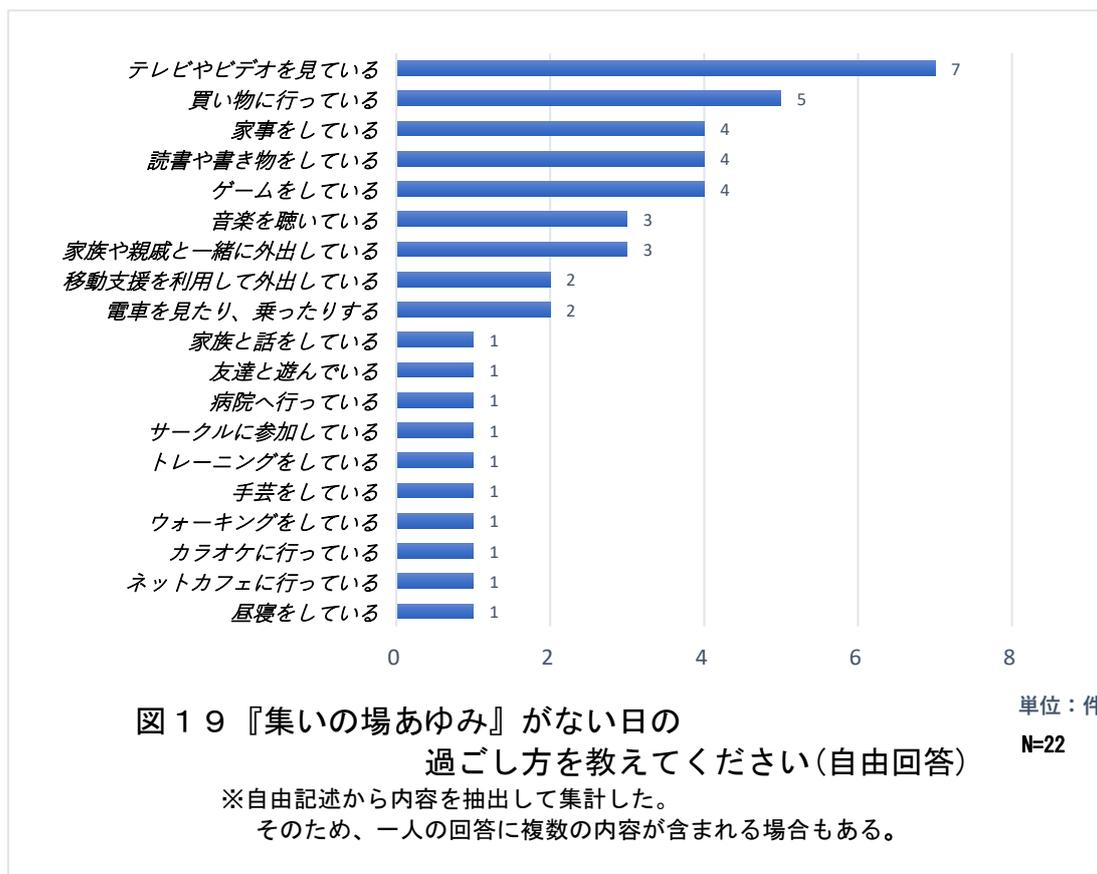


『集いの場あゆみ』でこれからやってみたい活動や行事について、得られた自由記述のうち、やってみたい内容を抽出して集計を行った結果、「外出」(9件)が最も多くありました。外出には、映画鑑賞、観光名所、野球観戦、プラネタリウム、コンサート、ピクニックの回答があった。次いで、サッカーやエアロビクスなどの「スポーツ」が2件でありました。得られた回答のほとんどが、誰かと一緒にする活動であることがわかりました(図18)。

このことから、普段仲間とともに楽しみながら取り組む文化的な講座は、『あゆみ』で楽しかった内容と比較的結びつけやすいことが読み取れました。

また、これから学んでみたいことについては、現在講座で取り上げられている内容の回答が多くありました。一方、今後やってみたい活動や行事については、外出に関して様々な回答があったが、利用者一人ひとり記述された内容に違いがあり、利用者の希望がより強く出ているのではないかと感じました。これらを踏まえ、利用者にとって学びとは「これまで行われてきた講座」がイメージされやすく、一方で自分がこれからやってみたいことについては、利用者にとって捉えやすいものとなっていたのかもしれないと考えられます。しかしながら、利用者一人ひとりの希望こそ、「意欲」であり、その意欲を新たな活動へと発展させていくことが支援者には求められるのではないのでしょうか。

(6) 『集いの場あゆみ』以外での休日の過ごし方



『集いの場あゆみ』以外での休日の過ごし方について、自由記述から内容ごとくに抽出し集計した結果、9つに分類することができました。そのうち、「テレビやビデオ」を見ているが7件と最も多く回答されました(図19)。他には、自分の趣味に時間を使ったり、家事のお手伝いをしたりするなど、利用者一人ひとりの家庭や生活環境、さらに障害特性に応じて、休日の過ごし方も異なっていることがわかりました。

このアンケート調査および結果については、県立広島大学保健福祉学部人間福祉学科卒業研究論文をもとにまとめました。

なお、アンケート調査を実施するにあたっては、書面と口頭にて本調査の目的と回答の取り扱いについて説明を行いました。具体的には、個人情報保護に努め、調査協力者が特定できないようにし、答えたくない質問には回答を求めないこととしました。これらの説明後、調査協力の参加・不参加の意思表示は質問紙の回答をもって判断させていただき、調査を実施しました。